

(別紙 1)

国から都道府県への協議に関する意見

都道府県名： 東京都

1. 特別地域連携プログラムに関する意見

特別地域連携プログラムは、従前からの連携プログラム同様、若手医師が医師少数地域へ派遣される仕組みであるため、基幹施設での研修期間が短くなることで、習得できる技能や症例数に偏りが出る恐れがある等、研修の質の低下ひいては診療機能の低下が懸念される。また、移動等に伴う金銭面や生活面への影響が大きいことから、必要な支援が得られなければ、専攻医への負担が多大となることも懸念される。

現在示されている特別連携プログラムは、定員枠の純増であるが、現行の連携プログラム同様に現定員に対する制限となるのであれば、医療機関の診療機能や医師派遣機能に対して大きな影響を与えることが懸念される。したがって、今後も定員枠の純増という位置づけは変更しないいただきたい。

2. 子育て支援加算に関する意見

子育て支援加算については、具体的な要件や手続きが不明瞭であるため、早急に制度を整理されたい。また、特別地域連携プログラムの設定が条件となっているため、実質的には加算を受けることが困難な場合が多いことが想定される。子育て支援と医師の地域偏在対策は別々の問題であり、子育て支援加算は独立した制度とすべきである。

3. その他の意見

【制度全般、医師確保対策、偏在対策に対する意見】

都は、そもそも現行のシーリング制度及び連携プログラムに反対の立場である。

現行制度の下で専攻医数の大規模な削減が行われた結果、基幹施設の人員不足や連携プログラムによるローテーション変更、医師の派遣の打ち切り等により、都内の医師少数区域を含む地域の医療には深刻な影響が出ている。特に、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、医師への負担は顕著なものとなっている。人員確保ができないことにより、医療機関によっては、休日夜間の救急診療を含む診療体制の縮小といった地域医療にとって甚大な影響を及ぼす事態が発生している。このような状況が続けば、医療機関における診療機能の低下等だけでなく、自治体の乳幼児健診や予防接種の規模縮小等、多方面に影響が及ぶことが懸念される。

シーリング等を行っても地域偏在に関して十分な効果が見られていないのであれば、特定の世代にシーリングとして押し付けるのではなく、一定程度経験を積んだ医師が過疎地域の医療に従事する制度等、全年代の医師を対象に医師の偏在対策を検討すべきである。

専門研修の過程においては、専門医の質の向上という制度本来の目的に鑑み、医師の偏在是正の観点からの取組を過度に推し進めることなく、専攻医の声を十分に取り入れ

たうえで、専攻医が希望する質の高い研修を受けられるようにするとともに、都道府県の医療体制に深刻な影響を及ぼすことのないよう、地域の医療機関の役割及び医師少数区域をはじめとした都道府県内の地域差などにも留意し、適切な運用を図ることが必要であると考ええる。

【連携施設への影響に関する意見】

連携施設においても、基幹施設の人員不足や連携プログラムが他道府県に連携先を限定していることから、都内の医師少数区域に所在する連携施設であっても、ローテーションに基づく専攻医の受入れをできなくなっている。また、基幹施設の勤務環境悪化の影響により、派遣先が医師少数区域であるかどうか、プログラム上の連携施設であるかどうかを問わず、従来行われていた一般医師の派遣が打ち切られるなど、専門研修制度に止まらない悪影響を生じている。そのため、連携施設においても、基幹施設同様に勤務環境の悪化や、過剰な労働負担が生じている。

従前から意見を述べているが、特別地域連携プログラムを含め、連携プログラムの研修先に同一都道府県内の医師少数区域の医療機関を含めるなどの改善が必要であると考ええる。

【協議に関する意見の具体的な検討過程及び結果の情報開示についての意見】

都から国に対して継続して要望している内容が専門医制度に反映されていないことから、都が提出した意見書の内容が、国においてどのように検討された上で医師専門研修部会に諮られ、制度に反映されたのか、具体的な検討の過程と結果を明らかにすべきであると考ええる。

各診療領域のプログラムに共通する意見

都道府県名： 東京都

診療科領域名： 全診療科共通

1. 複数の基幹施設設置に関する意見（小児科、精神科、外科、産婦人科、麻酔科及び救急科のみ）

--

2. 診療科別の定員配置に関する意見

各基本領域学会のシーリング調整においては、連携プログラムを置く施設が優遇されており、地域医療を担う都立病院等の公立・公的医療機関を含む市中病院には、連携プログラムの運用が難しいことから、シーリング調整において厳しい立場に置かれている。一方で、大学病院においても、連携プログラムの運用により、自院の診療維持や派遣調整において厳しい状況に置かれている現状がある。また、施設ごとの定員の調整において、算定に医師少数区域への貢献が適切に評価されているのか疑義もある。

都は、そもそも現行のシーリング制度及び連携プログラムに反対の立場であるが、基幹施設の同一都道府県内の医師少数区域への貢献が適切に評価されるよう、日本専門医機構には制度実施の担保を求める。また、開かれた制度となるよう、徹底した情報公開に基づく、調整を求める。

3. その他の意見

【地域枠医師等への配慮に関する意見】

東京都の地域枠は、診療分野単位の地域枠として、専門分野の医師の養成に重きを置いており、小児、周産期、救急、へき地医療いずれかの分野での従事要件を設けており、へき地医療以外の分野で勤務地域要件は設けていない。都では、令和2年度に地域医療対策協議会で制度改正の議論を行い、各医療分野に地域要件を設けることも議題となったが、研修の質、研鑽の質に疑義があるため見送った経緯がある。これは地域医療対策協議会での公開の議論に基づく都道府県の医師確保策に関する方針であり、シーリングの制度によって阻害されるべきものではない。また、地域枠医師のキャリアを考慮するとシーリング対象外の扱いは、勤務地域要件の有無に関わらず認められるべきものである。

現在、都の地域枠の医療分野のうち小児医療分野のみ専攻医シーリングの影響を受けるが、都道府県の医師確保策や地域枠医師のキャリアと整合性が取れた適切な運用を求める。